

国語(現代文・古文・漢文) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文・教育・法・経済】

<総括>

出題数	現代文 2 題 ・ 古文 1 題 ・ 漢文 1 題	試験時間	120 分
-----	---------------------------	------	-------

昨年度は、「喪失」を哲学的に論じた文章と、「科学的合理性」に関する文章とが出題されたが、今年度は、「ごみと人間の関係」を社会学的な観点から論じた文章と、「教育と経験」との関係性を論じた文章とが出題された。また、設問では、昨年度に出された抜き出し問題や、従来北大に頻出であった「文章全体の論旨を踏まえて」という条件のある問題が、今年度は出題されなかった。漢字書き取り問題は昨年度と同じく 4 問であった。大問一・大問二ともに、本文の読解はそれほど難しくはないが、字数制限が厳しく書きにくい問題もあった。全体としては、昨年度と同程度と言えるだろう。

<本文分析>

大問番号	一	二
出典 (作者)	梅川由紀「ごみと人間の関係」(『ごみと暮らしの社会学』青弓社 2025 年 所収)	今井康雄『反自然主義の教育思想——(世界への導入)に向けて』岩波書店 2022 年
頻出度合 ・的中等	入試では出題されたことのない筆者である。	入試では稀な筆者の文章である。
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加)約 3800 字	分量(減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加)約 3400 字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	社会論	問一	記述	標準	漢字書き取り問題。昨年度と同じく 4 問の出題。いずれも書けてほしい、平均的なレベルの漢字だと言えるであろう。3は「萌」もあるが、常用漢字外。
		問二	記述	標準	傍線部の理由説明問題。「ゴミの中からこんなもの展」に関して、現代人が「驚く」理由を、傍線部の後の内容を中心に書く。
		問三	記述	標準	傍線部の理由説明問題。筆者が「生きもの」という表現を用いた理由を、傍線部を含む段落から二段落・三段落後の段落の内容を中心に書く。
		問四	記述	やや難	傍線部に関する説明問題。「ゼロ・エミッションという考え方」によっても、ごみはなくならないことを、人々の意識レベルなどを「根拠」として書く。
		問五	記述	標準	傍線部の内容説明問題。最終段落とその前の段落の内容、および、過去から現在への経緯を踏まえた内容を、それぞれ過不足なく書く。

二	教育論	問一	記述	標準	傍線部の理由説明問題。傍線部直前を踏まえ、傍線部直後の「エルスチール」の語りの内容を中心に、「文中の言葉を用いて」という設問条件に基づいて書く。
		問二	記述	標準	傍線部の内容説明問題。傍線部を含む段落の前二つの段落の内容を踏まえ、「マスメディアと関係づけ」ながら説明する。
		問三	記述	標準	傍線部の内容説明問題。傍線部直後の引用部を踏まえて、教育との比較を論拠とした薬剤によるエンハンスメント肯定論を説明する。
		問四	記述	標準	傍線部の内容説明問題。傍線部の前の段落との共通点を考えつつ、傍線部の後の内容に基づいて『教育に関する現在の私たちの議論』の「傾向」を書く。
		問五	記述	標準	本文全体を踏まえた説明問題。「この文章から読みとり得る『真の教育』についての筆者の意見」を説明する問題。本文全体を視野に入れ、筆者が肯定的に論じている「教育」のあり方を説明する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

多様なジャンルの文章に触れ、限られた時間と字数条件の中で、的確に解答を作成する能力を養うこと。また、漢字書き取りで失点しないことも重要なので、日頃から漢字の練習を怠らないようにしましょう。

国語(現代文・古文・漢文) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文・教育・法・経済】

<総括>

出題数	現代文 2 題 ・ 古文 1 題 ・ 漢文 1 題	試験時間	120 分
-----	---------------------------	------	-------

江戸時代の「許六離別詞」(松尾芭蕉)からの出題。本文は森川許六が帰郷する際、芭蕉が別れを惜しみ書き与えたもので、「柴門ノ辞」として知られた箇所。芭蕉は許六の才能に敬意を払いつつ、俳諧のあるべき姿についても語っている。設問は、現代語訳と内容説明(40字・50字・50字)からなる。なお、現代語訳の問題には『言及される人物』の名前を明らかにして」という条件が付いていた。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	「許六離別詞」(松尾芭蕉)
頻出度合 ・的中等	頻出 完成シリーズ「私大古文」第十一講に的中
分量 前年比較	分量 (減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加) 518 字
難易 前年比較	難易 (易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	俳論	問一	記述	やや易	現代語訳。『言及される人物』の名前を明らかにして」という条件が付いていた。文脈理解が中心。 傍線部説明(40字)。「品ふたつ」の具体化と「用一なる事」の解釈がポイント。 傍線部説明(50字)。「夏炉冬扇」の意味理解がポイント。 傍線部説明(50字)。南山大師の「古人の跡を～を求めよ」という言葉を踏まえて、「書道」と「俳諧」の共通点をまとめる。
		問二	記述	標準	
		問三	記述	標準	
		問四	記述	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・基本的な単語や文法についてしっかり学習し、指示語の具体化や省略されている要素の補いに留意して、文脈を踏まえた上で、正しく本文を訳出できるような解釈力を身につける必要がある。
- ・内容説明や理由説明など典型的な記述型設問に対するトレーニングを積み重ね、間で求められていることを過不足なく盛り込み、与えられた字数でまとめることができる記述力を身につける必要がある。
- ・和歌や俳諧、古典常識などについても基本的な知識を習得しておく必要がある。

国語(現代文・古文・漢文) 北海道大学 総合入試【文系】、学部入試【文・教育・法・経済】

<総括>

出題数	現代文 2 題 ・ 古文 1 題 ・ 漢文 1 題	試験時間	120 分
-----	---------------------------	------	-------

清の紀昀による『閱微草堂筆記』からの出題。本文は、河豚好きの男が、河豚に当たって死んだ後も夢に現れて、河豚を供えるよう求めたという話と、博打で破産した男が、臨終の際に博打の道具を棺に入れるよう依頼し、息子がそれに応じた話とからなる。設問は、語の読み、ひらがなのみでの書き下し、現代語訳、内容説明(75字以内)からなる。昨年出題されなかった「ひらがなのみでの書き下し文」を求める問題が今年出題された。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	紀昀『閱微草堂筆記』
頻出度合 ・的中等	『閱微草堂筆記』はしばしば出題されているが、当該箇所の出題は稀
分量 前年比較	分量(減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加) 215字(昨年度は212字)
難易 前年比較	難易(易化・ やや易化 ・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	志怪	問一	記述	易	基本的な語の読み(5問)。 ひらがなのみでの書き下し。「何不～耶」(なんぞ～ざるや)の疑問形がポイント。 現代語訳。「乱命」の訳がポイント。 内容説明(75字)。「礼」より「孝」に基づく葬儀であるべきだとする姚安公の考え方について、本文全体の趣旨を踏まえてまとめる。
		問二	記述	標準	
		問三	記述	標準	
		問四	記述	標準	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・儒家や道家などの思想に関するものや史伝、志怪小説など多様なジャンルの文章が出題されているので、問題演習を通じてさまざまな文章に触れておくが良い。
- ・語句の読みや書き下しで確実に得点するために、基本句形や重要語句の習得が必須である。
- ・現代語訳問題に対応するため、日頃から漢字の訓読みや熟語化を通して意味を把握する訓練をするとともに、文章の前後関係をふまえた訳を考える力を身につける必要がある。
- ・制限字数75字の記述問題は例年出題されるので、内容を字数内でまとめる練習が不可欠である。